

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果及び改善内容

廿日市市立大野東中学校

【全国学力・学習状況調査】

第3学年 4月実施

※数値は、平均正答率

	国語	数学	英語	
			「話すこと」以外	「話すこと」
本校	76%	55%	49%	15%
広島県	70%	49%	43%	12%
全国	69.8%	51%	45.6%	12.4%

【分析と改善内容】

	結果及び県平均との比較の状況	結果から見える「重点課題」	「重点課題」に対する指導方法の改善内容
国語	正答率は、県平均を6%上回った。領域別では、「話すこと」は5.6%、「書くこと」は11.4%、「読むこと」は9%上回った。観点別では、知識・技能で3.2%、思考・判断・表現で8.4%上回った。問題形式では、選択式は6.4%、短答式で1.7%、記述式で9.4%上回った。	①「読むこと」の領域における「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること」や「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること」に課題がある。 ②知識・技能の観点における「文脈に即して漢字を正しく書くこと」に課題がある。	①複数の文章を比較しながら読むことができるように、資料提示を工夫する。またどのような視点で比較すると特徴が見えてくるのか、例を提示しながら、指導する機会を設ける。また文章を読む際には、初読の際に、全体的な構造とキーワードをつかむことができるような読み方を繰り返し行う事で定着を図る。 ②日常の中で使われている語句に着目し、文脈ごとの漢字の違いを意識させるように取り組んでいく。また教科書に出てきた言葉を取り上げ、教科書に出てきている語句の同音異義語に注目することで語句の量を増やしていく活動を仕組む。
数学	正答率は、県平均を6%上回った。領域別では、数と式で1.3%、図形で9.1%、関数で8.1%、データの活用で8.2%上回った。観点別では、知識・技能で4.3%、思考・判断・表現で9.5%上回った。問題形式では、選択式で2.6%、短答式で5.5%、記述式で9.5%上回った。	①数と式の領域で、自然数の意味を理解した上で自然数を選択することや、数と分数を含む数式の乗法の計算において、分配法則を利用して計算することに課題がある。 ②図形の領域で、ある事柄が成り立つことを筋道立てて証明する際に、既習の条件に基づいて証明することに課題がある。	①具体例を示し、ベン図や枝分かれ図を用いて数の集合を再確認させ、確認問題に取り組ませませる。また、式だけでなく図形を用いて分数の場合でも分配法則が使えることを理解する場面を設定する。 ②仮定や既に成り立っている事柄を基に、新たな事柄が成り立つことを示すためには、どの条件を用いることが最良なのかをグループで話し合ったり全体で考え方を共有したりして、判断する活動を仕組む。
英語	正答率は、県平均を6%上回った。領域別では、「聞くこと」は4.4%、「読むこと」は5.7%、「書くこと」は7.9%上回った。観点別では、知識・技能で7.0%、思考・判断・表現で4.6%上回った。問題形式では、選択式で5.1%、短答式で10.5%、記述式で4.0%上回った。 「話すこと」の全体の正答率は、県平均を3%上回った。領域別では、「話すこと[やり取り]」は、3.2%上回ったが、「話すこと[発表]」では、0.2%下回った。	①「書くこと」の領域における「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと」や「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くこと」に課題がある。 ②「話すこと[発表]」における「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができる」に課題がある。	①small talkで日常的话题や社会的な話題をtopicとして与え、自分の考えやその理由を述べ合う機会を定期的に設ける。その後、自分が述べた考えやその理由について、まとまりのある英文を書く活動を仕組み、繰り返し行うことで定着を図る。 ②教科書の本文やリスニング活動で、社会的な話題に関して読んだり、聞いたりしたことについて、自分の考えを理由をつけて書いたり、話したりする活動を仕組み、繰り返し行うことで定着を図る。